ボーリング柱状図

調　査　名	平成30年度上市地区　測量設計地質調査業務委託（急傾斜地崩壊対策・公共）
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	Bor.No.4	調査位置	広島県庄原市総領町稲草			北緯	34° 47’ 01.3284″		
発注機関	広島県北部建設事務所			調査期間	令和 2年 1月 10日 ～ 2年 1月 11日	東経	133° 3’ 58.9865″		
調査業者名		管理技術者		照査技術者		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	282.30m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 14°	使用機種	
総掘進長	8.00m					試錐機	軽量ボーリングマシン	ハンマー落下用具	半自動落下
						エンジン	100Vモーター	ポンプ	動噴

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
	282.15	0.15	0.15		表土	黒褐			植物根を多く含む有機質土。														
1	280.45	1.70	1.85		礫質土	暗灰、明褐			Φ10～50mm安山岩礫を40～60%含む。GL.-1.60～1.85m特に礫が多い。礫は、石英安山岩角礫で構成される。		1.15	7	8	9	24／30	24							
2											1.45												
3											2.15	4	3	4	11／30	11							
4	277.65	2.80	4.65		礫質粘性土	明褐			全体にΦ2～10mm安山岩礫を含む。指圧にて崩すことは可能である。GL.-4.45～4.65m礫が多く分布する。		2.45	3	4	4	11／30	11							
											3.15												
											3.45	10	12	18	40／30	40							
5											4.15												
											4.45	50／8			50／8	188							1／10
6											5.15												
											5.23	6	9	15	30／30	30							
7										1/11 7.22 ▽	6.15												
											6.45	50／2			50／2	750							
											7.15												
8	274.30	3.35	8.00		火砕岩	暗灰、暗褐			硬軟互層であり、軟質部分は、礫混じりシルト質粘土である。全体に短柱状コア～礫状をなし、礫は角礫である。硬質部分は、ナイフでキズをつけることはできない。 •GL.-6.45～6.55m：砂礫 •GL.-7.02～7.30m：礫状、マトリクス流失 •GL.-7.70～7.85m：粗粒砂		7.17	50			50／10	150							1／11
											8.25												